

令和8年度 熊本大学個別学力検査（前期日程） 【物理】 解答例

1

(問1) 板の重心に作用する重力は mg で、重心とローラーAの中心との水平距離は $b+c$ 、重心とローラーBの中心との水平距離は $b-c$ である。

板とローラーAとが接触している点周りで、板が受ける力のモーメントのつり合いは、反時計回りを正とすると、

$$-mg(b+c) + 2b N_B = 0$$

板とローラーBとが接触している点周りで、板が受ける力のモーメントのつり合いは、

$$mg(b-c) - 2b N_A = 0$$

$$\text{答: } N_A = mg \frac{b-c}{2b} \text{ [N]}, N_B = mg \frac{b+c}{2b} \text{ [N]}$$

(問2) 動摩擦係数は μ' で、 $b > |c|$ なので、 $F_A = \mu' |N_A|$ 、 $F_B = \mu' |N_B|$ より、

$$\text{答: } F_A = \mu' mg \frac{b-c}{2b} \text{ [N]}, F_B = \mu' mg \frac{b+c}{2b} \text{ [N]}$$

(問3) 板をローラーの上に置いた直後に、板に作用する摩擦力は、 $F_A - F_B$ なので、

$$\alpha_0 = \frac{(F_A - F_B)}{m} = \left(\mu' g \frac{b-c}{2b} - \mu' g \frac{b+c}{2b} \right)$$

$$\text{答: } \alpha_0 = -\mu' g \frac{c}{b} \text{ [m/s}^2\text{]}$$

(問4)

答: 単振動。加速度が、変位に比例し、その方向が変位と逆向きで、常に平衡位置に向かうため。

(問5) 板の重心と2つのローラーの midpoint との水平方向変位を x ($-c \leq x \leq c$) とおくと、(問3)の結果より、板の加速度 α [m/s²] は次式のように表される。

$$\alpha = -\frac{\mu' g}{b} x,$$

単振動なので、角速度を ω [rad/s] とすると、 $\alpha = -\omega^2 x$ と表す事ができる。よって、

$$\therefore \omega = \sqrt{\frac{\mu' g}{b}},$$

周期 T [s] は、 $T = 2\pi/\omega$ である。

$$\text{答: } T = 2\pi \sqrt{\frac{b}{\mu' g}} \text{ [s]}$$

(問6) 板の最大の速さを v_{\max} [m/s] とすると、変位の振幅は c なので、

$$v_{\max} = \omega c$$

$$K_{\max} = \frac{1}{2} m v_{\max}^2 = \frac{1}{2} m \omega^2 c^2$$

$$\text{答: } K_{\max} = \frac{m \mu' g c^2}{2b} \text{ [J]}$$

(問 1) O 点の電位 V_O と, M 点の電位 V_M は,

$$V_O = \frac{2kQ}{l} + \frac{k(-Q)}{l}, \quad V_M = \frac{2kQ}{\frac{3}{2}l} + \frac{k(-Q)}{\frac{1}{2}l} \quad \text{答: } V_O = \frac{kQ}{l} [\text{V}], \quad V_M = -\frac{2kQ}{3l} [\text{V}]$$

(問 2) O 点では, 正, 負電荷によるいずれの電場も, 向きは x 軸正方向で, その強さは,

$$E_O = \frac{2kQ}{l^2} + \frac{kQ}{l^2} = \frac{3kQ}{l^2}, \quad \therefore E_O = \frac{3kQ}{l^2}$$

C 点では, 正, 負電荷による電場の合成 ($\vec{E}_C = \vec{E}_{AC} + \vec{E}_{BC}$) を考える。また $\angle OAC = \angle OBC = \theta$ とすると, $\cos\theta = l/\sqrt{l^2 + L^2}$, $\sin\theta = L/\sqrt{l^2 + L^2}$ 。 \vec{E}_{AC} , \vec{E}_{BC} とともにそれらの x 成分は正の向きなので, \vec{E}_C の x 成分 $(E_C)_x$ は,

$$(E_C)_x = |\vec{E}_{AC}|\cos\theta + |\vec{E}_{BC}|\cos\theta = \left(\frac{2kQ}{l^2 + L^2} + \frac{kQ}{l^2 + L^2}\right) \frac{l}{\sqrt{l^2 + L^2}} = \frac{3kQl}{(l^2 + L^2)^{3/2}}$$

\vec{E}_{AC} の y 成分は正の向きで, \vec{E}_{BC} の y 成分は負の向きなので,

$$(E_C)_y = |\vec{E}_{AC}|\sin\theta - |\vec{E}_{BC}|\sin\theta = \left(\frac{2kQ}{l^2 + L^2} - \frac{kQ}{l^2 + L^2}\right) \frac{L}{\sqrt{l^2 + L^2}} = \frac{kQL}{(l^2 + L^2)^{3/2}}$$

$$E_C = \sqrt{(E_C)_x^2 + (E_C)_y^2}$$

$$\text{答: } E_O = \frac{3kQ}{l^2} [\text{N/C}], \quad E_C = \frac{kQ\sqrt{9l^2 + L^2}}{(l^2 + L^2)^{3/2}} [\text{N/C}]$$

(問 3) x 軸と平行な一様な電場 E' と, E_C の x 成分の合成を考えると P が受ける静電気力の x 成分は, $(E' + (E_C)_x)q$ で,

$$(E' + (E_C)_x)q = -\frac{(E_C)_x}{2}q,$$

$$\therefore E' = -\frac{3}{2}(E_C)_x = -\frac{9kQl}{2(l^2 + L^2)^{3/2}}$$

$$\text{答: } E' = \frac{9kQl}{2(l^2 + L^2)^{3/2}} [\text{N/C}] \quad \text{向き } x \text{ 軸の負の向き}$$

(問 4) C \rightarrow O \rightarrow M の経路を考える。まず C \rightarrow O の経路では, x 軸と平行な一様な電場による電位差はない。よって, この経路で外力がする仕事は C と O の電位差で決まる。

$$W_{CO} = -qV_O - (-q)V_C, \quad \therefore W_{CO} = kqQ \left\{ \frac{1}{\sqrt{l^2 + L^2}} - \frac{1}{l} \right\}$$

一方, 一様電場が x 軸方向にかかっていることから, O \rightarrow M の経路ではその一様電場による電位差を考慮する。O 点を基準にとると, その一様電場は x 軸の負の向きであることから, 一様電場による M 点での電位は $E'l/2$ である。よって, 正・負電荷による電位 V_M も考慮して, M 点の電位 V'_M は,

$$V'_M = V_M + \frac{E'l}{2} = -\frac{2kQ}{3l} + \frac{E'l}{2} = -\frac{2kQ}{3l} + \frac{l}{2} \times \frac{9kQl}{2(l^2 + L^2)^{3/2}}, \quad V'_M = kQ \left\{ \frac{9l^2}{4(l^2 + L^2)^{3/2}} - \frac{2}{3l} \right\}$$

$$W_{OM} = -qV'_M - (-q)V_O, \quad \therefore W_{OM} = kqQ \left\{ \frac{5}{3l} - \frac{9l^2}{4(l^2 + L^2)^{3/2}} \right\}$$

よって, P を C 点から M 点まで静かに移動させた

ときに外力のした仕事 W は, $W = W_{CO} + W_{OM}$

$$\text{答: } W = kqQ \left\{ \frac{2}{3l} + \frac{1}{\sqrt{l^2 + L^2}} - \frac{9l^2}{4(l^2 + L^2)^{3/2}} \right\} [\text{J}]$$

(問 5) 力学的エネルギー保存則より

$$\frac{1}{2}m \cdot 0 + (-q) \left(V_M + \frac{E'l}{2} \right) = \frac{1}{2}m(v=0)^2 + (-q) \left(\frac{kQ}{l} \right)$$

$$\therefore \frac{5}{3l} = \frac{9l^2}{4(l^2 + L^2)^{3/2}}$$

$$\text{答: } L = l \sqrt{\left(\frac{27}{20} \right)^{2/3} - 1} [\text{m}]$$

3

(問 1) 1 molの物質における熱量は、比熱×温度差で求めることができる。状態 A と B の温度をそれぞれ、 T_A と T_B とすると、

$$Q_{AB} = C_V(T_B - T_A) = C_V \left(\frac{p_2 V_1}{R} - \frac{p_1 V_1}{R} \right) \quad \text{答: } Q_{AB} = \frac{C_V V_1}{R} (p_2 - p_1) \text{ [J]}$$

(問 2) 定圧変化であるので仕事は、圧力×体積変化で求められる。状態 C の温度を T_C とすると、

$$W_{CA} = p_1(V_1 - V_2),$$

$$Q_{CA} = C_p(T_A - T_C) = C_p \left(\frac{p_1 V_1}{R} - \frac{p_1 V_2}{R} \right) \quad \text{答: } W_{CA} = p_1(V_1 - V_2) \text{ [J]}, Q_{CA} = \frac{C_p p_1}{R} (V_1 - V_2) \text{ [J]}$$

(問 3)

答: B→C の断熱自由膨張では、気体がした仕事および加えられた熱量がゼロであるので、熱力学第1法則より内部エネルギーの変化はゼロとなる。物質量は1 molで一定で、理想気体の温度は内部エネルギーのみに依存することから、状態 B と状態 C は同じ温度で、温度変化はない。

(問 4) A→B は定積変化で、その間の内部エネルギー変化 ΔU_{AB} は、加えられる熱量 Q_{AB} と等しい。また (問 3) より、状態 B と状態 C は同じ温度で、 $p_2 V_1 = p_1 V_2$ であり、 $V_1(p_2 - p_1) = V_2 p_1 - V_1 p_1 = p_1(V_2 - V_1)$ である。

$$\Delta U_{AB} = Q_{AB} = \frac{C_V V_1}{R} (p_2 - p_1) = \frac{C_V p_1}{R} (V_2 - V_1)$$

また (問 3) より、B→C の断熱自由膨張では内部エネルギーの変化 ΔU_{BC} はなく $\Delta U_{BC} = 0$ 。

C→A は定圧変化で、その間の内部エネルギー変化 ΔU_{CA} は、加えられた熱量 Q_{CA} と理想気体がされた仕事 ($-W_{CA}$) の和と等しい。(問 2) より、

$$\Delta U_{CA} = Q_{CA} - W_{CA} = \frac{C_p p_1}{R} (V_1 - V_2) - p_1(V_1 - V_2)$$

1サイクルで $\Delta U_{AB} + \Delta U_{BC} + \Delta U_{CA} = 0$ となるので、

$$\frac{C_V p_1}{R} (V_2 - V_1) + 0 + \frac{C_p p_1}{R} (V_1 - V_2) - \frac{R p_1}{R} (V_1 - V_2) = 0 \quad \text{答: } C_p = C_V + R$$

(問 5) 内部エネルギーの変化を考える。A→B では (問 4) の ΔU_{AB} と同様に、 $\Delta U_{AB} = Q_{AB} = \frac{C_V V_1}{R} (p_2 - p_1)$

B→C' は断熱変化で、 $\Delta U_{BC'}$ は、された仕事 ($-W_{BC'}$) と等しく、 $\Delta U_{BC'} = -W_{BC'}$

C'→A は定圧変化で、その間の内部エネルギー変化 $\Delta U_{C'A}$ は、加えられた熱量 $Q_{C'A}$ とされた仕事 ($-W_{C'A}$) の和と等しい。ただし (問 4) の ΔU_{CA} で V_2 を V_3 に置き換え、 $C_p = C_V + R$ を用いて、

$$\Delta U_{C'A} = Q_{C'A} - W_{C'A} = \frac{C_p p_1}{R} (V_1 - V_3) - p_1(V_1 - V_3) = \frac{C_V p_1}{R} (V_1 - V_3)$$

1サイクルで内部エネルギーは元にもどるので、 $\Delta U_{AB} + \Delta U_{BC'} + \Delta U_{C'A} = 0$ となる。従って、

$$\frac{C_V V_1}{R} (p_2 - p_1) - W_{BC'} + \frac{C_V p_1}{R} (V_1 - V_3) = 0 \quad \text{答: } W_{BC'} = \frac{C_V}{R} (p_2 V_1 - p_1 V_3) \text{ [J]}$$

(問 6) 図 2 の熱機関が1サイクルで外部にした正味の仕事 W は、 $W_{BC'}$ と C'→A 変化でした仕事 $W_{C'A}$ の和で、

$$W = W_{BC'} + W_{C'A} = \frac{C_V}{R} (p_2 V_1 - p_1 V_3) + p_1(V_1 - V_3)$$

理想気体に加えられる熱量 Q_{AB} と $Q_{C'A}$ を考える。 $p_2 > p_1$ より、 $Q_{AB} > 0$ で、理想気体は Q_{AB} の熱量を受け取る。一方 $V_3 > V_1$ で、 $Q_{C'A} < 0$ で、理想気体は $|Q_{C'A}|$ の熱量を放出する。従って、

$$e = \frac{W}{Q_{AB}} = \frac{\frac{C_V}{R} (p_2 V_1 - p_1 V_3) + p_1(V_1 - V_3)}{\frac{C_V V_1}{R} (p_2 - p_1)} \quad \text{答: } e = \frac{C_V (p_2 V_1 - p_1 V_3) + R p_1 (V_1 - V_3)}{C_V V_1 (p_2 - p_1)}$$